

第1号様式

令和6年度 第1回 保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 全体会(総会) 議事録	
日時	令和6年5月16日(木) 14:00 ~ 16:15
開催場所	保土ヶ谷公会堂1号会議室
出席	名簿のとおり
欠席	
開催形態	公開(傍聴人: 名) ・ 非公開 記録:
議	<p>司会進行: 遠藤(基幹相談支援センター) 議事録: 大竹(区社協)</p> <p>1 挨拶</p> <p>保土ヶ谷区社会福祉協議会 事務局長 美戸孝紀氏より</p> <p>自立協は区によってメンバーや取組内容が異なる。保土ヶ谷区では9つもの部会で活動をしていると聞いている。他区と比べても多くの活動がある</p> <p>保土ヶ谷区のほっとなまちづくり(地域福祉保健計画)に基づき、住みやすい地域づくりを一緒に考えながらよりよい保土ヶ谷を目指したい。</p> <p>2 自立支援協議会と保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会について</p> <p>保土ヶ谷区障害者地域自立支援協議会 代表 石田氏(夢21福祉会)より</p> <p>ほっとなまちづくりの会議にも参加。R5は2回開催された。計画と自立協との連動が地域福祉を進めるうえで重要と考えている。無理のない範囲でネットワークを作っていく。</p> <p>地域の中でも障害理解がまだまだ進んでいない現状もある。</p> <p>地域資源マップの話でも出るが、担い手をいかに、という話も出ている。その中で小学校5~6年生対象にねちよばなという取り組みが行われている。</p> <p>保土ヶ谷区は今後50年で25パーセント人口減という試算もでている。</p> <p>自立協のスローガンは昨年度と同じく「知る、伝える、繋がる、広げる保土ヶ谷区」。</p> <p>自立協として保土ヶ谷区の100周年事業実行委員会にも参加。令和9年度の100周年に向けて7年度から準備が進んでいる。</p> <p>100周年に行う事業への補助金もある予定で、登録して活動することが100周年に連動し障害者の自立支援にも寄与できると思われる。ゆるキャラが誕生する様子。</p> <p>5期計画ほっとなまちづくりは5月から6月に団体ヒアリングがなされる予定。</p> <p>地域課題や共有事項とすることが重要。自立協では6月の担当者会議でヒアリングの予定。</p> <p>3 令和6年度「拠点整備計画」と「にも包括」について</p> <p>保土ヶ谷区生活支援センター 所長 平良氏</p> <p>整備計画は各区で作成している。</p> <p>拠点とは「地域で安心して暮らすための機能」であり、計画はそれをどう進めるかのプラン。この計画は3機関だけで作成されることも多いが、保土ヶ谷区は全体で共有したり意見を反映させたりしながら進めている。</p> <p>① 相談 困難ケースや拠点の機能について見える化し理解を深める。</p> <p>② 緊急 他区の成功事例の共有。</p>

- ③ 体験 体験の機会をどう広めるか、現実的にどう進めるか。
- ④ 人材 育ちあえる学びあえる機会。販売の機会などへの学生の参加。等々

<にも包括について>

精神障害にも対応した地域包括が名称で、高齢の方だけでなく精神障害分野でも包括ケアシステムの構築を目指す。

自立協と生活支援拠点、にも包括が関連しあい、事例検討→共通課題の検討→取り組みの具体化、というサイクルで様々なケースを取り扱う。

包括的な支援とはどういった支援なのかを考え、どのようなメンバーがいればよいのか、メンタルヘルスのことも含めた検討を行っていく。

3 各部会より令和5年度報告・令和6年度実施概要

部会	R5	R6
○全体会・担当者会議 夢 21 福社会 石田氏	部会→担当者会議→全体会というサイクルで行った初年度。全体会は年2回、担当者会議は年3回開催。区3機関カンファとも共同連携する機会が設けられた。	全体会2回、担当者会議3回、を予定。オール保土ヶ谷で進める姿勢で、R5に形作られた拠点コーディネーターの設置も検討したい。
○事務局 夢 21 福社会 石田氏		障害者権利条約批准日である12/20に一斉に何らかのアクションを実施したい。ほっと自立協の連動と保土ヶ谷区全体で動いていきたい。
○地域支えあい研修 ほどがや希望の家 佐藤氏	7月は自閉所の方との関わりについて事例ワークで学んだ。2月には自立協と区作連について学ぶ機会とした。オンラインの要望もあるが、対面での実施を基本としたい。	年2回の実施を予定し、顔の見える関係づくりを目的とする。研修内容も話をすすめているところ。7/17(水)には公会堂にて研修会を実施する予定。皆で情報交換までできるような場をしたい。
○お仕事フェア ほどがや希望の家 金崎氏	区内の事業所の職員の充足のため、様々な場面で周知を行い、活動ホームゆめに実施。当日11事業所が参加。各ブースに約60名多くの方が来た。年齢的に50代の方が多く順に40代30代20代。女性65%。事業所の雰囲気や話ができてよかったとのアンケート結果あり、8割の方が来てよかったとの感想。障害福祉を知ってもらえる機会にもなっているし、チラシ配布は作業所の仕事として連動できた。	
○こども部会 保土ヶ谷支援学校 杉本氏	障害児に関わる機関を対象にした年3回の勉強会実施(7, 10, 2月)。こうよう学園の見学や放課後デイ連絡会の中で精神ネットとのコラボでヤングケアラーについて学んだ。 研修会 こどもに関わる事業所が横のつながりを求めている様子。	年3回の勉強会を計画(6, 9, 1月)。こどもや家庭の取り巻く課題を検討。気がるに
○こども余暇部会 区こども家庭支援課 金山氏	年2回実施。1回目は夏に桜木町でエアキャビンとミュージアムへ行った。ボランティア向け研修も実施できた。参加者の減や実施するためのノウハウの継承が課題。	余暇を通じて地域資源を知る機会としても実施する。年2回、夏と冬の予定。
○ほっとらんど トラック 力石氏	西谷地区センターでコーヒーの提供。区内事業所のネットワークを広げて活動を目指す。コロナで開店できなかった時期から、再開す	ひきつづき参加事業所の参加の声かけと作業所連携を行いネットワークを広げていく。

	ることができた。参加事業所の減少から開店日が減っている。	
○自主製品販売部会 カルガモの会 武藤氏	社会参加、工賃増、販売場所の増を目標に活動。月1回の会議の中で出店調整を行っている。12月と2月に西谷浄水場で販売できた。10月末には星川駅前で実施。イオンとのコラボ企画も実施。区役所販売も再開となった。課題は、販売場所が増えたことから業務量の増に対応できる体制が必要な点で、解決のため役割分担が進んだ。	今年度から区社協が加わった。販売活動は、区老連のお手伝いもいただきながら区役所(日替わり出店)で実施。イオンは月1階、西谷浄水場では昼食を中心に実施。区社協のコーディネーターもあり、県商工とのコラボ企画も検討中。5月には星川駅にて13事業所が参加して実施。
○当事者活動部会 ほどがや希望の家 早坂氏	兼ねてから実施したかったがコロナでなかなかできなかった映画上映会をようやく実施できた。当日は300名以上の参加。区社協とのつながりから県商工の方が司会を行った。この映画は県商工の全員が見るべきとのお話もいただいた。	上映会をすると予算規模が大きくなるため、並行して発達障害に関して交流イベントも検討していく予定。ときわ虹の会の菅田さんのメッセージがとても良かった。
○まちで暮らすネットワーク～地域生活支援拠点～部会 いわまワークス 高桑氏	拠点機能の理解を深め、各事業所の役割について考える機会を作る。ただ部会だけで動く話ではないことから、多くの事業所と理解を深める必要がある。事例検討を実施し、出たアイデアを現場で生かす。また、GH交流会も実施できた。	多くの事業者が連携を取っていきけるよう、顔の見える関係を作り、事例検討とアイデアだし、GH交流会を実施する。特に居宅介護の事業所は少ないため出席してほしい。
○防災部会 ほどがや希望の家 早坂氏	被災地センターについては別途報告。地域の防災拠点の訓練は土日に実施されることから、日中活動の事業所も地域と防災に関する取り組みができるよう、希望の家で地域の方(天王町)を含めて防災訓練を実施。	被災地障害者センターの訓練を中心に行っていく。能登の支援活動の報告なども行っていきたい。
○相談支援部会 恵和相談室 相原氏	相談支援に関わる事業所同士の関係性構築を目的に、勉強会や事例検討会を実施。事業所の規模によって参加が難しい部分もあるが、部会の参加人数は安定してきている。	地域体制強化協働加算について、取る仕組みを整理して実行する。勉強会や事例検討を引き続き実施する。
○区精神 net 生活支援センター 平良氏	多様な事例検討を実施。共通するテーマがあることが明らかになり、次年度のテーマ設定にもつながった。	地域移行・定着をテーマとして「個別支援チーム会議(仮)」を新たに始める。

4 令和5年度収支報告と令和6年度予算案について

保土ケ谷区基幹相談支援センター 主任相談員 遠藤氏

主な収入は地域支えあい連携推進事業の補助金32万円。支出で最も高いのが業務委託費12万円で、ホームページの更新経費として使用している。次いで11万8千円の講師謝金。

R6の予算としては大幅な変更はない。

→当期末残高のマイナスは法人の予算で飲み込んでいる。

→11ページの支出合計と12ページの合計の不一致は12ページが誤りのため修正する。

5 ホームページ「ほどがやの障害福祉」リニューアルについて

保土ケ谷区基幹相談支援センター 田村氏

5月16日からリニューアルオープン。コンセプトは、①活動の見える化、②部会の横のつながり、③自立協の情報発信力の向上、④活動がイメージしやすいページ作り。

部会のページも作成し、各部会の当年度の記録や目標、過去の資料データのアーカイブなども見ることができる。部会によってはチラシなどを掲載したいという要望もあるため、それにも対応できるページ設定にしている。

部会のホームページ担当も決め、アップする際の窓口として設定することになった。何か掲載したい内容がある場合は担当者へ連絡を。

6 保土ケ谷区の資源マップについて

保土ケ谷区障害者地域自立支援協議会代表 夢 2 1 上星川 石田氏
令和 5 年度に作成した資源マップについて説明。

8 ページのアセスメントシートは、毎年この会議で出しているもので、よくできている。このアセスメントに基づいて、17 ページの資料に繋がっている。縦軸が項目別で横軸が年齢となっている。その中で相談できる場所や活用できるものなどを記載している。

7 被災地障害者センター横浜ほ도가やについて

ほ도가や希望の家 島田氏

2018 年ごろから防災部会で検討されてきたセンターについて概要を説明。

保土ケ谷区の障害者手帳所持者は 1. 1 万人で南相馬市の約 10 倍。小規模な事業所が多い区である。ゆえに、被災時には当事者・事業所ともパニック状態となることが予想されるため、あらかじめセンターの準備をすることでスムーズな立ち上げ、支援ボランティアの受け皿づくりが進められる。

熊本での事例や資料、宮城の支援活動のながれについて説明。

被災の時は、ゆめ風基金というものがあり、必要な経費は賄う仕組みがある。今後は 6 月の防災部会の中で説明の予定。また、オーダーがあれば都度説明も可能。

このセンターの取り組みは市内でも例がなく、これをきっかけとして市内でも広がってくれればという思いもある。

8 まとめ

保土ケ谷区福祉保健センター 高齢・障害支援課 市川係長

区内では手帳の保持者が約 1 万人いる。サービスを使っている人もいるであろうし、情報などが行き届いていない人もいると思われる。この自立協のネットワークが、区内の障害福祉の中で、そういった方の声を拾えるよう、横のつながりを持って進めたい。

7 その他 情報共有

- ・保土ケ谷区地域福祉保健計画（ほとなまちづくり）について、今後障害分野のグループインタビューがある。第 4 期は地区計画の部分が多くなってしまったが、過去の計画では、当事者や支援者へのヒアリング（インタビュー）を行い分野別に記載されていた。区社協の障害部門の分科会のヒアリングも予定されており、まだ出席回答していない方は是非、良い機会ですので、ご参加ください。

次回全体会：10月1日（火）14：00～16：00

場所：保土ケ谷公会堂 1 号会議室